

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員称	博物館協議会 専門部会		
開催日時	平成 24 年 12 月 20 日（木） 午後 6 時～午後 7 時 40 分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	沖野部会長 北沢副部会長 石森委員 岡本委員 小池委員 茅野委員 名取委員 両角委員 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷博物館係長 柳川博物館係主査		
欠席者	浜委員 花里委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
若宮博物館長	1 開会（博物館係長） 尖石縄文考古館の市民総学芸員化と紛らわしいので市民学芸員の名称について、前回お願いしたが、議論いただきたい。次回の専門部会では、市民の参加について、また市民の参加の方法について、どのような形で進めていったらよいか議論していただきたい。これまでに話が出ていたが、先進的な館を見る視察が必要であれば、視察を行いたい。視察を行った場合、視察に基づくご意見を伺うための専門部会を開かなければならないと考えている。一応、次回の専門部会で、議論の終結もあるが、まだ、議論が足りないということであれば、引き続き専門部会を開催することも可能である。今日、これらのことについて、方向性を示していただきたい。		
大谷係長	前回の会議録の確認は、次回までに配布を行いたい。本日は配布しません。		
沖野部会長	1 協議 今日は博物館の運営を中心に議論していただく。今までの議論の中で、運営に関することはたくさん出てきているので、今回は今までの議論の整理も含めてまとめていきたい。最初に、運営に関わる組織的な現状や現状の博物館の学芸活動、市民学芸員の他の自治体の状況を事務局から説明してもらいたい。		
大谷係長	まず、博物館法に「公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。」という条文があり、茅野市ではこの条文を受けて、博物館協議会が設置されている。運営に関して、館長の諮問に応じ、館長に対して意見を述べるという組織である。委員は、現在 13 名で組織され、学校教育や社会教育の関係者から選任されている。先日の法令改正で、家庭教育の専門家も選任するようになるということになった。次回の委員の改選の時には、家庭教育の専門家について議論されるのではないかと考えられる。協議会を円滑に運営していくためには、専門部会を設置できることになっている条文がある。		

	<p>さらに、博物館の管理規則がある。その中には、「博物館の事業の専門的な企画運営及びその推進を図るため、博物館専門委員を置く。」と書かれている。専門委員が、専門的に活動して、運営していくということも考えられる。</p> <p>現在博物館での実際の運営については、展示会・出版・資料整理・調査・研究が博物館の学芸活動について、市民学芸員の他の自治体の状況を資料説明する。</p> <p>他市町村の市民学芸員・調査員について調査してわかったことは、博物館があるところとないところで内容が異なる。</p> <p>博物館がある自治体は、市民学芸員や調査員・研究員といった、より専門的なことを研究しようとする活動に力点を置いている。</p> <p>博物館がない自治体は、全市を屋根のない博物館と考えて、文化財遺産や自然遺産を案内する人、掘り出してくる人をボランティアの学芸員としている場合が多い。「場づくり」・「人づくり」・「まちづくり」というキーワードで生涯学習の部署が担当している場合が多い。</p>
沖野部会長	今日は、組織・運営について、協議するが、その中に市民学芸員を位置付けていきたい。
北沢副部会長	毎年、市民学芸員となる人が、養成講座を受講しているのか。それが、修了した後、どのような活動を行っているのか。
大谷係長	原則は毎年、養成講座を行っている。修了した後は、博物館の企画に関わってもらい、企画自体を運営してもらおう館も多いと思う。
沖野部会長	それはボランティアか。
大谷係長	ボランティアです。屋根のない博物館だと、町を案内するようなガイド的な仕事をやっているようだ。案内人を養成する意図もあるのではないか。1~2年かけて育成した方が街づくりのキーパーソンになるように期待して養成していると思われる。
北沢副部会長	修了証を貰った人の中からボランティアで協力しますという人に運営に参画してもらおうということか。
大谷係長	そのようなケースが多いと思う。
北沢副部会長	毎月など決めて、一般市民に講座を開催するのは、市民大学のようなものと同じになってきているように思う。市民大学のようなところで、修了証を受けたような人が、博物館の運営に携わるようになってくるのか。
大谷係長	先ほど述べたが、博物館があるところとないところでは、大きく性格が異なるように思う。博物館があるところでは、博物館の事業を共同して行ってくれることを前提として募集が行われ、修了証を受けた人が、一緒に企画運営に携わっていつている。
北沢副部会長	今年修了証を貰った人が、また次の年、同じような講座を受けて、再び修了証をもらうのか。
大谷係長	それはないと思う。
北沢副部会長	毎年やっていって、協力・協力といって、その中からといっても。
若宮博物館長	私が川崎でボランティアグループである調査団を市民に呼び掛けて始めたのは、今から30年前だった。その頃は、まだ博物館でボランティア活動

というのはあまり活発ではない時代だった。全国でも珍しい活動を始めたのが川崎調査団だった。市民を巻き込んで川崎の自然の調査をしようということで始めた。その時、考えたのは、市域の自然調査は職員だけではやりきれない。業者に委託するのでは館の主体性がない。そこで市民の手を借りることを考えた。市民の皆さんの力は素晴らしいものだった。現在も8つの班に分かれて、継続的に調査を続けている。それが、20年・30年経った時に、その成果が、川崎の環境行政を考える上で、なくてはならない宝となった。市民の汗が成果となった。調査団への参加や辞めるのは自由にした。3年間調査し4年目で結果をまとめることにした。その都度自然環境調査報告を刊行している。辞めてもその報告書には名前が残るようになっていく。活動を継続しながらこれらの市民は力をつけたので、行政と対等に話のできるようにNPO法人にした。このような活動をしたわけは、川崎市青少年科学館は青少年施設であったが自然資料を集めていたからだったので、ある日自然系の登録博物館となった。博物館になったからには、川崎の自然について答えられなければ博物館とは言えない。それで早急に川崎の自然の調査をしなければならなかったからだ。今、八ヶ岳総合博物館が似た環境にある。学芸員が少ない。茅野市の自然がどうなっているのかと聞きに来られた時に、総合博物館にある資料で見せられる資料が断片的にあるが、継続的なものはない。十分ではない。調査研究を地道に蓄積していった結果がものという宝になるがそれがない。そこで茅野市でも市民に協力を求めて、八ヶ岳総合博物館を支えてもらおうと考えている。そんな市民学芸員を育成したい。市民学芸員にはこういう単位を取ってもらわなければならない、こういう講座を受けてもらわなければならないということをおおむね決めるが、私個人としては、ハードルを高くしたものではなく、ハードルが低い誰でも参加できる形で、いつの間にかだんだん実力が付いていくような、そして力を発揮できるようなものができるようなものを作りたいと考えている。私が考えている市民学芸員と、全国のほかの都市の市民学芸員が同一のものとは限らない。茅野に相応しい市民学芸員制度を考えたい。市民学芸員という名前に特に拘らなくてもいいと思う。「市民」という名前を残すならば、市民研究員や市民博物館員でも良いし、「学芸員」を残すのであれば、地域学芸員や風土学芸員というような言葉でも良いと思う。今後、科学教育センターの構想もあるので物理化学の分野にも広げていかなければならないとなると、このようなものを包括した名称の方がいいということになる。

北沢副部長

前々回は学芸員を前面に出さずに、人を集めるような講座の方がよいという話もあったが、「学芸員」というものを念頭に置いて、むしろそちらの方へ傾斜をかけて、協力員の組織を作っていきたいということか。

若宮博物館長
北沢副部長

博物館を手助けし支えてくれるような組織と活動をイメージしている。今話をしているのは、前々回のような総花的な話ではなく、学芸員を育成することを念頭に置いて、専門部会として考えていった方が良いのではないか。言いつばなしで良いのか、どちらなのか。

若宮博物館長

4月から始めていかなければならないことなので、具体的に議論してい

茅野委員	ただかないと間に合わない状況である。
北沢副部長	長野市の教育センターの資料を読んだところ、教育センターと博物館は全く別だった。教育センターは学校を意識して、小学生と先生を念頭に置いている。理科センターも博物館も作るということになると、難しいのではないか。長野市は職員数も多いが、茅野市は少ないので難しいと思う。
石森委員	来年度以降が、実行計画を建てる年度になるので、こうあるべき論を提出していくということか。
北沢副部長	先ほど館長が述べたことが、専門部会の方向性を示唆している。それを専門部会で尊重しながら議論を進めていくべきだ。
	(沖野部会長、模造紙に書き込み終わる)
沖野部会長	気になることとして、協議会で運営のことをどの程度、各博物館に言っているのかどうか、その運営は、長期計画があるのかどうかということだ。たとえば色々なプログラムがあったとして、その次の年のプログラムとどのような関連があるのかが、位置付けられているのか。博物館独自の運営委員会が必要だと思うが、それは、現在あるのか。
茅野委員	ない。博物館協議会は、博物館からの事業報告と事業計画を述べるだけである。
沖野部会長	八ヶ岳総合博物館独自の運営委員会で長期計画を立てて、各年度の企画をする。そういうのが必要だと思う。運営委員会が、事業を計画して博物館活動を動かしていく、という態勢がないと言う点が現在の運営で最も欠けているところだと思う。
石森委員	この専門部会は、八ヶ岳総合博物館の専門部会か。
若宮博物館長	違う。博物館協議会の専門部会だ。
沖野部会長	諮問は市長からされているのか。
大谷係長	博物館長の諮問に答える形となっている。
沖野部会長	一番の問題は、八ヶ岳総合博物館の中に、住民を含めた運営委員会または協議会がないことで、八ヶ岳総合博物館運営委員会のようなものを作って、学芸員を含めて、長期計画や個々の計画を作っていくという方向性が必要なのではないか。
若宮博物館長	行政と専門的な指導をしてくれるグループと博物館とで、言われているようなものを作ろうと思っている
石森委員	茅野市規則で、専門委員を置くことができるとあるが、現状では存在しているか。
若宮博物館長	現在はない。
石森委員	専門委員がきっちりと育てるということか。
若宮博物館長	専門委員を来年置いて、その専門委員に市民学芸員を育成してもらおうと計画している。専門委員には市民を育てていただく。その専門委員と博物館と行政が力を合わせる。この三者で企画を推進していくような会議は絶対必要だと思っている。それがないと、いろいろな分野の市民学芸員の

	方向性がそろわなくなってしまう。
茅野委員	長野市理科センターも、4分野で専門委員を揃えている。
北沢副部長	我々が諮問されていることは、こういうことを来年やってもらいたいということを強力に言うということか。
沖野部長	運営に関わる専門委員会を早く作り、学校・博物館・住民の関係が上手くいくような仕組みを専門委員で考える。その下敷きは、今度の答申には載せられるだろう。
小池委員	私が館長在籍時には、自然関係・歴史関係・民俗関係の専門委員があり、会議を持っていた。専門委員は7・8人いた。
北沢副部長	その専門委員は誰が委嘱したのか。
小池委員	博物館が委嘱した。学芸員が質問を受けた時、答えられないときに、専門委員に協力してもらい、質問者と専門委員と直接話してもらっていた。
沖野部長	専門委員が働きやすいように運営委員会が必要だ。
茅野委員	5年ほど前に各学校に連絡員がいたが、旅費を出してはいけないうことになり、集められなくなって、学校との連絡会議が開かれなくなった。
若宮博物館長	来年は、この学校との連絡会を復活させて、運営、連携などの協力をしてもらうつもりでいる。
沖野部長	専門委員には学校の指導要領を知っていてももらう責任もある。
茅野委員	以前、館長が言っていた核というのは専門委員だ。
北沢副部長	専門委員の代表者会を開催して、企画・運営を決めていけばいい。
若宮博物館長	専門委員の中から一人専門委員長をお願いし、統括をお願いする。分野別に市民学芸員を班分けして、細かいことは班対応にできればいいと思う。
沖野部長	企画運営委員会ができて、常置にしないと消えてしまう。
若宮博物館長	最低年3回は開催したい。4月早々募集が終了した時点と、9月くらいに途中経過の報告をしてもらい、2月に開催を予定し結果を報告してもらうことを考えている。
石森委員	専門委員のあり方は理科教育センターも同じパターンだ。
小池委員	専門委員は自然だけではない。総合博物館は外せないということになっているので、歴史などの他の専門委員を入れないと、総合博物館の専門委員にならない。そこをどうするか。まず、自然をやっていくが、いずれ、歴史・民俗・産業・文芸の専門委員を作るという道筋をつけておかないと市民がかなり心配している。
沖野部長	長期計画と短期計画との提示がないと自然系と歴史・文化系との関連性、進行計画が一般の人には見え難い。
石森委員	新聞に以前掲載された理科教育センターについては、物理・化学のことであって、その他の分野は、中・長期的な計画が必要だ。 とりあえず発足させて、歴史や文芸などは同じ組織で作っていくことは考えている。そして総合的に市民が関わっていく博物館にしていかなければならない。
石森委員	博物館はハブになればよい。
沖野部長	博物館が入門口となり、詳しくはここへ行きなさいという指示ができればいい。博物館の学芸員はその名称にこだわらずに、市民研究員・市民調査員といくつか作って、様々なレベルで参加できるようにすればよい。
北沢副部長	あまり重荷にならないような名称の方がいいか。

茅野委員 若宮博物館長	川崎は市民パートナーか。 市民調査団と呼んでいる。活動を通じて力をつけた成果として、調査団に自然観察会などを開催してもらっている。土・日曜日に一般のお客さんが来たときに、必ず何かしらの観察会をしてもらうようお願いし、案内するようにしてもらっている。また、調査団が調査した結果をもとに市民向けの植物や野鳥のガイドブックの原稿を作ってもらい、館が予算をつけて発行したりもしている。
沖野部会長	周辺市町村に博物館がたくさんあるが、博物館連合みたいなものがあるか。
小池委員 沖野部会長	諏訪郡市博物館等連絡協議会がある。 協議会だとただ集まって情報交換するだけなので、連合みたいなことができないか。そうすれば、それぞれの博物館で同じものを飾らなくて済むし、各館を窓口にして、ここへ行けばよいと案内できる。
小池委員	6市町村合併の時にそのような話が1度あったが、頓挫した。この時は、岡谷が産業博物館、諏訪が歴史、下諏訪が諏訪湖、八ヶ岳総合博物館は自然、富士見が文芸、原村が美術というように、合併したらさうしようとのことだった。
沖野部会長 茅野委員	今回の協議の他に、学校との関係を考えていかなければならない。 学校との関係では、大河原堰は学校との関係がはっきりしているが、このようなものを、学校へ提供し、学校ではどうしても必要なものを、選択できるようにしたいが、長野市理科センターのようなことは、八ヶ岳総合博物館ではできない。専門委員に内容を絞ってもらって、提供しなければならない。
石森委員	手法としては長野市理科センターのようなやり方で良いと思うが、それを縮小したものをやればいいのか。
沖野部会長 大谷係長 沖野部会長	次回が最終の協議か。 状況に応じて、柔軟に協議していただいて結構です。 今回の結論としては、総合博物館の運営・企画に関する企画運営委員会を学校・住民・博物館などから人選して設置し、それを上手く機能させる。その企画・運営委員会が中心となって、長期的な企画・運営・スケジュールを決定していく必要がある。 その他、委員から特に質問、意見等はなく、了承された
大谷係長	2 次回以降の予定 平成 25 年 1 月 17 日 (木) 午後 6 時からと前回の会議で決定されている。 その他、委員から特に質問、意見等はなく了承された ～午後 7 時 4 0 分 終了～